

◆令和7年度ちばし地域づくり大学校受講生募集中!

地域福祉・ボランティア活動に役立つ講座や、地域で活動する団体での実地体験を通じて地域との関わり方を考えます。今年度から町内自治会コースを新設!一緒に地域づくりについて学ぶ方を募集します!

【申込期間】7/1②~8/18①郵送の場合は必着

【会場】主に千葉市役所、一部、千葉市民会館、幕張公民館など各コース指定会場

【受講料】無料

【主催】千葉市 【問合せ・企画運営】NPOクラブ

詳しくは大学校ホームページをご覧ください!



◆千葉県市民活動団体マネジメント講座開催!

随時、申し込みを開始します。詳細はブログにてお知らせします。

ブログ QR



日程	開催方法	講座名	講師	定員
1 10/18 (土) PM	対面・Zoom併用	人材育成と担い手確保につながる事業づくり	松本祐一さん（NPOサポートセンター代表理事）	30名
2 10/16 (木) PM	Zoom	ばっちり習得 NPO 法人の労務①	石井敏則さん（社労士）	30名
3 10/23 (木) PM	Zoom	ばっちり習得 NPO 法人の労務②	石井敏則さん（社労士）	30名
4 11/11 (火) PM	対面・Zoom併用	演習でじっくり習得 NPO 法人の日常会計処理	加藤達郎さん（税理士）	30名
5 11/25 (火) PM	対面・Zoom併用	ばっちり習得 NPO 法人の年度末会計処理と事業報告書作成	加藤達郎さん（税理士）	30名
6 2月中旬 PM	Zoom	NPO のための個人情報保護講座	須藤博文さん（弁護士）	30名

※講座日程や開催内容は変更になる場合があります。

【受講料】無料 【主催】千葉県 【問合せ・企画運営】NPOクラブ

◆「プロボノ」にトライする社会人ボランティア募集!

「ならしのプロボノチャレンジ2025」(令和7年度習志野市市民協働型委託事業)

仕事や生活のなかで得た経験やスキルを活かすボランティア「プロボノ」。今年度は習志野市を拠点とする市民活動団体を支援します。チームで取り組む約3~4ヶ月間限定のプロジェクト型のプロボノです。まずは説明会にご参加ください。

＜社会人ボランティア募集説明会＞

第1回 8/3日 14:00~15:30 オンライン(Zoom)



第2回 8/23土 10:00~11:30 プラット習志野

【問合せ・企画運営】NPOクラブ

説明会のお申込みなど
詳しくはこちら→

◆多世代交流拠点おおなみこなみ『青空市』開催!

日時 8月24日① 11:00 ~ 14:00

『青空市』は世代を越えて楽しめる企画が満載、お食事の提供もあります。

わなげコーナー・ビーズコーナー・ものづくりコーナー・グルメコーナー・軒下おゆずり会などなど

子どもも・大人も・親子でも・1人でも遊びにきてください☆



Map QRコード

NPOクラブの活動を支える賛同会費・寄付ご協力のお願い

(NPOクラブは認定NPO法人です。賛同会費・寄付は税制優遇の対象となります。)

年会費1口:団体会員5,000円、個人会員3,000円 寄付1口:3,000円

寄付は税制優遇の対象となります。)

《編集・発行》 認定特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ(NPOクラブ)

〒261-0011 千葉県千葉市美浜区真砂5-21-12 TEL 043-303-1688 FAX 043-303-1689

E-mail: chiba@npoclub.com URL: https://npoclub.com

ブログ: http://blog.canpan.info/npo-club1

Facebook NPOクラブで検索 X NPOクラブで検索

・運営会員 20名 賛同会員98名 発行 1000部 会員・県内市民活動支援センター・自治体等にお届けしています。



こぎのいこぼく

地域力、福祉力、市民力 チカラをあつめる、つなぐ、高める、広げる～市民が主体の地域づくりを！

2025年度NPOクラブ事業計画

今年度は継続実施している事業の中でも新たな取り組みやそれぞれのテーマを持って進めていきます。

●四街道市みんなで地域づくりセンター運営

事業全般で他機関や学校等と連携。「ふるさとまつりのごみ箱アート」、こども支援や災害支援ネットワークづくり等の事業を実施。「市民活動の基礎講座」、協働事業提案制度「コラボ四街道」の申請と採択後の支援により、地域課題の解決に向けて取り組みます。

(四街道市受託)

●八街市協働のまちづくりPiT運営支援事業

協働のまちづくり PiT の運営についてアドバイスやコーディネーター会議に出席します。PiT ではニュースレター、メルマガの発行や地域づくり団体のネットワークを構築します。区・自治会、地域づくり団体が参加する「八街のいいね！」を語ろう会や「地域力向上スクール」の企画運営、市民への情報提供や交流会を開催します。

(八街市受託)

●多世代交流拠点「おおなみこなみ」運営

福島県から千葉県に避難している方たち(1,255名)への情報提供、相談対応、訪問を行い、地域に出向き交流会を開催。孤立を防ぎ、避難者同士が日常的に連絡、交流できるような「つながりづくり」を進めます。その他、他団体とも協力しながらを広げていきます。

(福島県受託)



●NPO運営相談、講座企画、講師派遣

団体運営に関わる相談を電話、メール、対面で常時受付。千葉県市民活動団体マネジメント事業として、事務力向上や団体運営に関する講座を企画開催(千葉県受託)。また、行政と連携・協働し市民活動参加促進の講座を企画、講師を派遣。

市民活動支援

被災者支援

地域づくりのコーディネート

●福島県県外避難者支援、相談事業

福島県から千葉県に避難している方たち(1,395名)への情報提供、相談対応、訪問を行い、地域に出向き交流会を開催。孤立を防ぎ、避難者同士が日常的に連絡、交流できるような「つながりづくり」を進めます。その他、他団体の交流会に参加することでつながりを広げていきます。

(千葉県受託)

●「ならしのプロボノ 2025」企画運営

社会人の多様なスキルや経験を活かすボランティア「プロボノ」を、団体の運営基盤強化に活かす取り組み。現役世代のボランティア参加を促すと同時に、市民活動団体のステップアップを支援します。団体固有の悩みに伴走します。

(習志野市受託)

●ちばし地域づくり大学校企画運営

地域づくりや福祉活動への理解を深め、地域活動参加のきっかけとなるような学びや出会いの場を提供。市内NPOや支援機関などと連携しながら地域人材の育成を支援します。今年度より町内自治会コースを新設し、より地域課題に密着した講座を実施します。

(千葉市受託)

●「ちばボランティアナビ」の活用促進

千葉県のボランティアマッチングサイト『ちばボランティアナビ』をツールに団体の受け入れ支援、体験会の開催など、地域でのボランティア活動の活性化・定着に取り組んでいます。事務局・認定NPO法人サービスグラントと共に実施。(千葉県受託)

第25回総会・「みんなで話そう」

2025年6/14(土)@幕張公民館

定期総会開催後に、13団体26名の参加で、団体の活動課題に沿った4つのテーマで意見交換しました。日頃感じていても、見過ごしていたことを認識し直すことで次の一步が見えてくると感じました。

NPOの業務効率化って、どうすればいい?

担い手不足や予算の厳しさ、チーム内の情報共有の不安—NPO活動をしていると、誰もが一度は感じる課題ではないでしょうか。こうした状況に対して、「AIをうまく活用して業務の効率化を図ったら」という声が聞かれます。

議事録の作成やアンケートのまとめといった業務は、AIの得意分野。議事録をもとに内容を要約した動画を作成、視聴するといったこともできます。作業時間をぐっと短縮できるので、スタッフが本当に注力すべき活動にエネルギーを回せるようになります。ただし気をつけたいのは、団体の理念や思いを伝えたい場面で、AI任せにすると本来伝えたいものが弱くなってしまいがちです。AIはあくまで“補助”として使いこなし、最終的な言葉選びや構成には人の気持ちを込めて仕上げる必要があります。

業務効率化の目的は「人にしかできないこと」にしつかり時間を使うこと。地域の人たちや支援者と直接対話するといった活動に、AIで生まれた余力を充てられたらと思います。

人のつながり、団体への継続的な関わり、新たな関わりをどう作るか

人のつながりや団体との継続的な関わりを育てるには、オンラインの便利さとオフラインでの出会いの両方が必要です。団体の取り組みに参加するきっかけは、好きな商品や生産者交流会など、身近な興味から生まれます。たとえば、生協の「お米の生産者交流会」では、普段集まりにくい平日午後にも多くの人が参加しました。関心があり、大事なことと思うテーマだったからです。ただ、社会的に意義のある活動であっても、関心を持つ人がまだ限られているため、より多くの人に関わってもらえるような仕組みづくりや活動が何につながっているのかを「見える化」することも重要です。

一方、組織の内部では、目的が見えづらくなったり、手段が目的化してしまったりする問題もあります。スタッフ内の分断の解消には、食事会などで交流の場を作ること、組織内の役割を明確にするとともに、個人への期待



を言葉で伝え合うことが重要です。「自分が参加したこと、やったことがこんなに役に立っている。何につながるかが見えること」が大切ではないでしょうか。

社会保険の加入等、法人運営の難しさ—ワーコレ連合会をめぐる現状と課題の整理

ワーコレ連合会は、中間支援組織として地域の事業所を支える重要な役割を担っていますが、事業の拡充や職員配置に必要な財源の確保が難しい状況にあります。連合会を構成する各事業所も、それぞれの運営に忙殺されており、連合会の運営にまで人員を割く余裕がないのが実情です。運営体制をどうするか、検討が必要です。

ワーコレが担う役割は、単なる事業運営だけではありません。労働者協同組合法の制定以降、「働くこと」そのものの意味を問い合わせ動きが進むなか、ワーコレは「働くコミュニティ」として位置づけられています。とはいえ、制度的な整備にも関わらず、現場での成果や手応えが実感しやすく、運営負担の大きさが課題として残っています。

運動と事業の両立は常に難しい問題であり、理念と収益性のバランスを取ることは不可欠です。変化する社会状況の中で、働く価値をどう見出し、共有するのか—構成メンバーでの話し合いの場を持つ努力が、次なる一步につながるのではないかでしょうか。

人材育成、担い手確保について

地域や組織において、活動の担い手を増やしていくためには、人材育成と参加のしくみづくりがとても大切です。企画に参加しても会員にならなかったり、定着せずに離れてしまうことが少なくありません。

このような状況の改善には、担い手になってほしい人に臆せず声を掛けてみる、参加しやすい時間や環境をつくるなど、参加の入口を広げることがひとつの手段ですが、単に入りやすくなるだけではなく、「なぜその活動があるのか」「何につながっているのか」といった目的を

伝え、確認できる機会をつくることが大切です。忙しそうたり、疲れ切ってしまい、そうしたことをおざなりにしていないでしょうか。

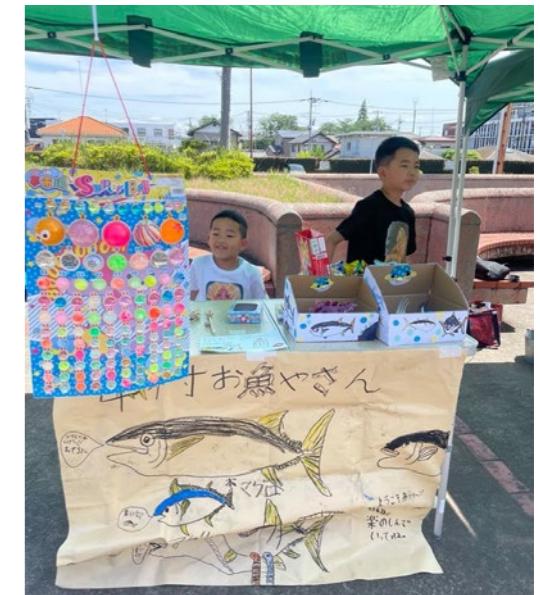
また、「あなたの参加に期待しているよ」と伝え合えるような関係性を育てるのも、定着につながる大切な要素です。やりたいことに応えられる環境や、小さな挑戦を応援できる雰囲気づくりも大切です。外部との関係づくりも、いきなり大きな協力を求めるのではなく、日常の中でのちょっとしたつながりの積み重ねを大切にすることで、信頼や理解が育ち、活動の広がりにもつながっていきます。

四街道市みんなで地域づくりセンターでの実践 —こどもがのびのびと育つことができる地域をつくるために—

「こどもまんなか社会」の実現に向けた新たな一歩として、「よつかいどうこども万博」を開催し、こどもたちが主役となる体験を通して、地域とつながりながら育つ場づくりが動き出しています。



5/11に四街道市文化センターで開催した「こども万博」の様子。来場者は約2000人。



「こども縁日」で店番をするこどもたち。

協賛:印旛市郡四街道地区医師会

これからこども支援に向けて

みんなで地域づくりセンターでは、今回の学びを今後のこども支援につなげていきます。夏休みには、こどもたちが企画から関わる「図書館おばけ屋敷」を実施予定で、楽しみながら主体性と協働を育む場づくりを進めています。こども食堂や地域の居場所づくりについても、「安心・安全とは何か」を地域とともに考えながら、こどもが気軽に参加できる取り組みを支援していきます。

(図書館おばけ屋敷 四街道市ボランティアセンター共催企画)

<地域づくりのサポートスタッフ募集>

NPO クラブでは、四街道市から受託して運営しているみんなで地域づくりセンターのサポートスタッフを募集しています。地域課題に関心のある方のご応募をお待ちしています。詳細は、みんなで地域づくりセンターホームページをご覧ください。



ホームページはこちら↑